



日本から初めてオリエンテ
ーリング種目に参加！
ここにもヨーロッパ勢は強
すぎる！

デフリンピックとは

4年に1回開かれる、聴覚障害者のスポーツ大会では最高峰となる世界大会。デフ (deaf) とは英語で、ろう、耳の聞こえない、の意味。1924年にフランスのパリで初めて開催された。20回目を迎える今回は、80か国から3000名のアスリートの参加が予定されていた。また、1949年からは冬季大会も行なわれている。

障害者のスポーツ組織として世界で最も早く設立された、国際ろう者スポーツ委員会 (CISS) が主催する。もともとは、"世界ろう者競技大会" という名称だったが、前回の第19回大会 (2001年、イタリア・ローマ) から国際オリンピック委員会 (IOC) の承認を受けて、"デフリンピック" と改称された。(読売大阪HPより抜粋)

オリエンテーリング種目

オリンピックやパラリンピックよりいち早く前回の2001年のイタリア・ローマ大会から種目にオリエンテーリングが導入された。今回で2回目。15カ国から55人(プログラムより)の参加者があり、スプリント、ロング、リレーで競う。なお、次回からはミドルが追加され、デフリンピック期間中に思う存分競えるようになる予定。

メルボルン大会

開催期間：2005年1月5日～16日
開催場所：オーストラリア
メルボルン市内、近郊

日本からは過去最高120名の派遣選手役員団が構成されました。全競技16の内10の競技で、全力を出し切って戦いました。その結果、メダルは目標数31個に遠く及ばない11個(金3、銀7、銅1)となりました。特に女性の活躍がめざましかったです。(水泳、バレー、テニス、バトミントン、卓球)

今回は各国選手の若返りが目立ち、



国際手話で交流する野中好夫氏

また、国が選手育成に力を入れているところがありました。わが国ではパラリンピックほど知名度が高く海外試合の経験が少ないのが現状です。

オリエンテーリングへの参加は今回が初めてで他競技選手や役員から注目されていました。監督兼選手として野中好夫(多摩OL)が参加しました。また競技期間中には宇野明子(多摩OL)がマネージャーとして応援に来て下さいました。1月9日にスプリント、1月12日にロング、1月13日にリレーが行われました。リレーはチームが組めず不出場しました。スプリントは26人出場、23位中21位でした。ロングは22位中22位で無事完走しました。私の前上位は全員が欧州勢でした。

スプリントもロングも金メダルを取ったのは前回のメダリストでLithuania人のKuzminskis, Tomasさんでした。後はSwitzerlandやRussian FederationやSwedenやUkraineやLatviaなどが競っていました。女子の方は男子より参加人数が4分の1しかおらず女子リレーは実施されませんでした。スプリントもロング

もUkraineが1位、2位を占有していました。

スプリント(1月9日)

メルボルンの郊外、バララットのピクトリアパークが会場でした。

Map: "Victoria Park"

Scale: 1:5,000

Contour Interval: 5m

3.890km コントロール数 17

SI チェック方式

2分間隔スタート



雑草の生えているセミオープン(スプリント)

公園の中にはクリケットのピッチがあちこちにあるオープンがあったり膝まで伸びて群る麦畑のような雑草地のよ

うなラフオープンがあったり変化の豊富な公園でした。とくに、麦のような雑草地には通行可能だが先の尖った実のようなものが刺さって痛くてスピードが上がらない。10 コントロールまでは18位をキープしていたがラフなMapのせいで21位に後退してしまった。Mapには2本しかの木が記されていないのに実際は数本の木が広いエリアの真ん中にあった。どこかの木にコントロールが隠されているような感じであったが、後から来た欧州選手は一発で当てられていた。正確な方位や距離感覚で感心してしまった。いくら、走力があってもピタリ正確にたどり着くようではなければ意味が無いものだと思つた。



スプリントスタート地区

ロング(1月12日)

メルボルンの郊外、バララット市街の北方でかつて金鉱がはやっていたところがテラインでした。前日の11日が予定日でしたが36度にも及ぶ高気温や強風のため山火事の危険が出て延期されたのでした。確かにユーカリの木は油が燃えやすく、テラインのあちこちには山火事の跡のように炭のような木が見られました。

Map: "Nerria"

1994年WC大会用Mapのリメイク

Scale: 1:10,000

Contour Interval: 5m

10.3km 330M

コントロール数 28

SI チェック方式
2分間隔スタート

1月7日のトレーニングコースでこのテラインの角で行われていたのでテラインの状況は把握したつもりだったが、長距離レースには不安を感じた。

絶対、緑のところにはトゲがあるので入らないことと事前に忠言を頂いたが回りこむには損するような僅かな緑エリアを通り脱げようと思ったらやはり無理だった。このアホなことでスタート直後にロスタイムを作ってしまった。

また、スタート地区はスプリントと同様にゴール地区から見える敷地内に置かれていた。このため、スタート地区へ向かったらゴール地区へ戻ることを禁じられていた。そういう設定のためか、スタートして間もないところに最終コントロールからゴールへの誘導テープに出会った。ここで私はゴールへの誘導テープとは知らずその誘導テープに沿って危うく最終コントロールへたどり着くところでした。途中で方向がおかしいことに気づいて戻ったがこれもロスタイム。この2回ものロスタイムを第一コントロールへ向かう間に作ってしまったのでこの後28個もあるコントロールを無事にクリア出来るかなという不安が頭の中をよぎった。

冷静になって第一コントロールをクリアしてその後、スタミナ切れにならないようアタックポイントを明確にしながら走り回った。3つの有人コントロールがあってそこから無線で通過情報を流していたようでした。

複雑な地形が特徴であったテラインをうまくアタックしてゆけたのはよかった。しかし、スタミナ切れを考慮してスピードが出せなかったのが残念であった。

このMapのFieldwork&Drawingのところ静岡OLクラブのRob Plowrightさんの名前があった。1994、1998、2002、2004年に担当したようです。

最終コントロールがゴール地区にいる観戦者たちからよく見える沢に設定されていました。(写真)それで、ゴールには選手たちが集まってウェーブで迎えてくれました。前上位者とは60分以上もかけはなされたがゴール閉鎖時間になる前に完走できたことで欧州勢からも現地スタッフから賞賛を頂きました。その上、スウェーデンチームから公式ユニホームをプレゼントされました。ほんとうに途中で棄権しなくてよかったと思う同時にもう年齢無制限のロングレースには出たくないと思いま

した。これでマスターズ領域に入る私にとって最後のデフリンピックのオリエンテーリング競技は終わりました。次回からはぜひ、若い選手を育成して引率して行きたいものです。



ロング最終コントロールを通過する筆者

運営について

オリエンテーリング競技は、Danishの聴障者Marek Mir-Mackiewiczさんがデフリンピックオリエンテーリングテクニクディレクターで競技ルールや運営をコントロールしていました。

運営はバララットの現地オリエンテーリングクラブ「EUREKA ORIENTEERS」が協力していました。残りはデフリンピックのボランティアや警察や消防署で構成されていました。ロングのテラインでパトカーがパトロールしていたのにびっくりしました。実際、前日にオーストラリアのどこかで死者を出した山火事を心配していたようでした。

レースは9時から始まり、正午には終了するようになっていました。ゴールが閉鎖されると直ちにゴールのアーゲードをバックに表彰式が行われた。国旗の揚上も行われた。日本国旗もちゃんと用意されていたのがテントから見えました。もちろん、アンチドーピングのテントもありました。(写真)



SIチェック方式を採用したのはメモリー容量が大きいのと点滅で確認出来るのが理由だそうです。

スタート通知方法では5秒前に赤旗を上げ、スタート同時に旗を真下に下げる方式で行われていました。カーレースのように三色信号方式で行われるかなあと予想していましたが見事にはずれました。しかし、人手だと微妙にズレが発生するので機械方式がいいのではないかと思います。

テクニカルディレクターミーティング

デフリンピック開会式の前、1月3日オーストラリア到着したばかりの日にオリエンテーリング競技のテクニカルミーティングが行われました。そこには参加各国の監督が出席するのですが私が出席しました。テクニカルディレクターより競技ルールの説明などが行われ、現地クラブのスタッフからも説明が行われました。もちろん、国際手話の通訳がボランティアによってコミュニケーション確保が行われていました。しかし、アジア圏の私にとっては国際手話がよく分かりませんでした。せめて基本だけは覚えようと往路の飛行機の中で国際手話ハンドブックを一通り覚えましたがあまり役に立ちませんでした。幸い、ディレクターが私を心配して分からなかったら何度もたずねてくださいとおっしゃってくれました。少しづつ、国際手話を覚えるようになり各国選手と交流することが出来ました。一番使った国際手話は「年齢」でした。おそらく、私が参加選手の中で一番高年齢だったためでしょうね。



ディレクターと宇野明子さん

全競技が終わった13日の夕方にもテクニカルディレクターミーティングが行われました。そこで今回の競技の問題点が色々と出されました。スプリントのMapの質も出ていました。そのほか、ヤングや子供への育成問題も出されていました。オリエンテーリング人口減少問題がここにもあるとは思いませんでした。International Deaf

Orienteering Federationの設立が発表されました。2006年のWorld Deaf Championshipsはハンガリーで開催されることに決まったようです。その次が日本で開催したいと言う声も出ました。その理由としてアジア地域にも欧州選手団が訪れてオリエンテーリング競技を見せて紹介していきたいとのことでした。私も出来ることならぜひ実現させてあげたいと思います。日本では今度のWOCの開催経験を持つことになるので、その流用であれば出来ないことはないかと思います。そのときは運営に皆様のご協力をお願いするかもしれません。

なお、次回のデフリンピックは2009年9月に台北で開催されます。そこでもオリエンテーリング競技は行われる予定で台北の自転車競技役員が視察に来ていました。日本から若い聴障者の選手育成が出来れば派遣させたいと考えています。ですので、全国の皆さん、身近にオリエンテーリングに興味を持ちそうな聴障者がおられましたら積極的に紹介して面白さを教えてあげてください。もし、私が必要でしたら全国どこでも飛びますのでそのときはご連絡下さい。日本パラリンピック委員会(JPC)へ強化費助成、海外派遣費用助成の計画もありますのでオリエンテーリングディレクターはもとより指導員各位の積極的な聴障者選手の開拓にご協力をお願いしたいと思います。もちろん、当方も日本ろう者スポーツ協会(JDSF)の協力を得ながら全国展開をはかっていきますのでよろしくご協力お願いいたします。

終わりにになりましたが今回のデフリンピックにご声援をありがとうございました。

【参考】デフリンピックサイトURL集
デフリンピックの公式サイトではその日のダイジェストを収めた動画が公開されており、9日のところでオリエンテーリングが紹介されています。レース後の私がチャラリと映っています。

デフリンピック 2005

<http://2005deaflympics.com/>

デフリンピック公式サイト

<http://www.deaflympics.com/>

読売大阪のデフリンピック特集

<http://osaka.yomiuri.co.jp/deaflympic/>

日本ろう者スポーツ協会のデフリンピック特集

http://www.jfd.or.jp/sports/20sd/20sd_top.html



ロングの地図とコンパス



スプリント男子表彰式

紀子さまに手話で説明

昨年12月13日にデフリンピック派遣選手団の各スポーツから代表で赤坂御所へ秋篠宮同妃両殿下のご接見に行ってきました。とくに紀子妃殿下からオリエンテーリングってどういうスポーツですかと手話しながらおはなされ、説明しました。ずいぶん気をつかいましたので大変疲れました。うまく伝えられてホッとしました。

やはり、コントロールはわからないと思ってポストに変えて説明したりしてよかったです。よく理解頂けたと思います。歩くのではなく走り回るのですと話したら、距離はどのくらいですかとお尋ねされました。今回はショートレースとロングレースがありまして、.....4キロ.....10キロですと答えました。ずいぶん、私の方が他スポーツよりちょっと長く説明しました。でも皇室までオリエンテーリングを知って頂けてうれしいですね。

約30分して終わりになり、最後に団長が挨拶してお開きになりました。その後、両殿下が玄関までお出でになり見送り頂きながら赤坂御所を出ました。もう緊張の連続でした。

(野中好夫)